

第5回は17名の参加(申込は23名)がありました。

## 第1部 教職員等中央研修を終えて ～心に残ったことばと求められている教員像～

邑久中学校片山先生が研修で学び、感じたことを、場面を想定しながら分かりやすく紹介してくださいました。そして、それぞれのキャリアステージで求められている姿を確認しました。



何が目的だったのか？  
それによって  
評価は変わる。

今までは学ばせてもらうことがほとんどでしたが、  
自らが求めて学び、伝えていく事も求められ始めて  
いることに気づきました。

“人は人を浴びて人になる” その時その時の関わりが、  
“人”につながると信じ、来週からまた頑張ります！

“「入場行進」ではなく、  
「プールの渦のように」と  
いう言葉が心に残りました。  
すごく納得です！

“自分こと化”をこれからもっと意識してい  
かなければいけないと思いました。自分が成  
長するために、周りのことを考えて  
いけたらと思いました。

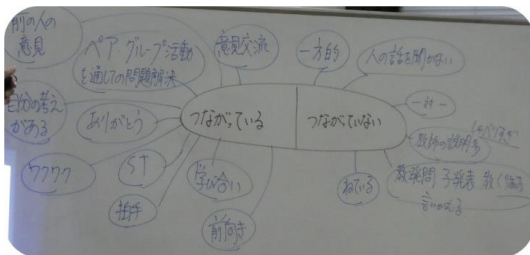
研修計画書の作成をしたことで、どのようなことが必要で  
何を伝えたいかを考えることができました。いつまでも若手  
ではなく、意識をかえる必要がある。



キャリアステージごとに求められる資質能力を身につけるために、  
「学び続ける教員」を目指していきましょう。心に残ったセリフ36は  
センターサーバ内22瀬戸内まなび塾にあります！(片山)

## 第2部 子どもどうしをつないだ授業づくり ～こどもはつながりたいと思えてる？～

子どもどうしがつながっていると感じる授業とそうでない授業。原因も何となく分かっている  
けど、いざ授業となると…そんなモヤモヤを一掃する手だてをみなさんと一緒に考えました。



普段意識していることや、考え方を改めていきたいなあ  
と思ったことなど、様々な考え方の変化がありました。  
明日からの仕事に取り入れていこうと思いました。

常識を一度見直してみる必要があると感じました。  
もう一度子ども目線の授業を考えたいと思いました。

つながっている、つながっていないとい  
うのは頭で分かっているものの、書き出して  
みるとなかなかできていないと思った。  
意識してできることからやっていきたい。

どうしても、授業をするのが楽しくて教えがち  
になってしまうこともあるので、少し教えるの  
を我慢して、子どもたち自身が気づけるような  
授業ができるようにしていきたいです。

教師に言われたことをこなすだけの授業は、子どもは「言われ  
たことができたならOK」と思い、つながる必要性を感じません。  
自分たちで考えたことは人に聞いてもらいたいし、一人でできな  
いことは友だちと一緒にしたいと思うもの。それが「主体的・  
対話的で深い学び」につながる第一歩だと思います。  
キーワードは「子どもと一緒に学ぶ」です！(渡邊)

子どもどうしをつないだ授業づくり

教師が主体で  
学習者が理解する授業 → 学習者が主体で  
教師が支援する授業  
教える < 一緒に学ぶ  
INPUT < OUTPUT

授業のゴールを教師と子どもが共有し、  
つけたい力は何なのかを大事に授業を  
頑張ってください！

